

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市あじさい大学運営委員会 あじさい大学見直し検討部会(令和元年度第3回)				
事務局 (担当課)		健康福祉局保険高齢部 地域包括ケア推進課 電話 042-769-9231(直通)				
開催日時		令和元年11月25日(月)10:00~正午				
開催場所		相模原市役所 会議室棟1階 第1会議室				
出席者	委員	6名(別紙のとおり)				
	その他	3名(生涯学習センター職員1名、相模原市シルバー人材センター職員2名)				
	事務局	3名(地域包括ケア推進課長、他2名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ  2 議題 (1) あじさい大学見直しにかかる検討  (2) その他				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( 〃 は部会長の発言、 〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言 )

### 1 開会

### 2 あいさつ

小林部会長あいさつ

### 3 議題

次第に沿って、小林部会長の進行により議事が進められた。

#### ( 1 ) あじさい大学見直しにかかる検討

事務局から、部会資料 3-1 及び部会資料 4-1 に基づき、前回部会での意見等の確認及び補足説明を行った。

部会資料 3-1 の「イ 通年・短期・公開という体系は妥当か」及び「オ 学部・学科数、学科の選定は妥当か」について

#### 【主な質疑】

通年講座のパターンは、委員会へはどのような形で出すのか。

すぐにできるパターンと慎重な検討が必要なパターンがあるので、整理してもらえるとありがたい。

学科名の見直しは見やすく、わかりやすく良いと思う。

学科精査の観点について、例えば油絵では、応募倍率（平成 29 年度 0.45、30 年度 0.3、令和元年度 0.45）と、修了生の実数（9 人）とを見ると、募集人数が何人なのかということもあり、どちらかではなく、両方を見なければと思う。

受講料は、回数 24 回で 7,800 円が、20 回で 7,800 円のままということか。

学科精査の観点として、応募倍率と修了生実数の関係は、総体的に判断しなければならぬと思う。応募倍率だけでは、募集人数により変動があるので適切な判断は難しい。

油絵は何人くらい募集しているのか。

20 人である。

油絵の受講生アンケート「学習内容の満足度」は 100 パーセントである。人数が少なくて、密度が高かったと思う。

来た方は満足しているから、100 パーセント。

学科精査の観点は難しい。操作できる数字を根拠にするとなおさらである。費用対効果ではないが、2 年連続で 10 人未満では少ない。受講生アンケートの満足度は、今年のもので反映できるのは翌々年だとすると、3 年間の方がより公平になる。修了者実数は 2 年連続で良い。応募倍率は、これまでの実績からすると、ある程度の期間の平均で判断した方が良く、3 年間平均が良い。学科名は、端的でわかりやすい。

わかりやすい。応募する人も、このような内容なら行ってみようと思う。

満足度は早い段階で講師に伝え、見直す部分についてはできるだけ早期に反映できるように努めたい。応募倍率は定数の変動があり得るので、年度ごとの数字を用いた。

応募倍率については、適正な定員について整理する必要があると思う。

応募倍率からは、受講生が飛びつくようなトレンドは感じられない。

学科名はわかりやすくなった。美術だと水墨画や水彩画に分けてあるが、書道では、例えば楷書や行書などに分けてはいかがか。

楷書や行書をその内容とするのであれば、そのような学科名とする。なお、書道は、現在、仮名中心と漢字中心とを区別している。

そうすると、中央区で仮名と漢字とふたつあり、緑区でもふたつあるということか。

内容と場所の表示があり、内容の違いがあるものについては、その違いも併せて表記するということである。

書道の中央区というのは仮名で、緑区は漢字だということか。

両方とも仮名であれば、単純に仮名で中央区教室、緑区教室ということになる。

受講料の関係については、基本的に受益者負担の考え方で計算方法があり、改めて計算したものを示すこととなる。

定数は、講師料を踏まえて決めていけばいいのではないか。

部会資料 3-1 の「カ 学科のレベルは妥当か」から「ウ 開設時期・期間・回数は妥当か」までについて

#### 【主な質疑】

「市民大学を紹介するなど連携する」とあるが、市民大学とは直接つながらない学科が多かったので、民間を想定して、市民大学「等」としたらどうか。できるかどうかはわからないが、受講生に紹介するということで民間からコマーシャル料のようなものを取れないものかと思う。

連携については、「等」を入れ、「市民大学等」とする方向で考えたい。

受講生から、今の時期のアンケートを取ることにについて意見があった。何かを詰め込むというのではなく、コミュニケーションをとって仲良くしましょうというのは良いが、そのような時間も作って勉強も同じようにしていくという余裕のある時間が欲しいと思う。また、思っていることを簡単に言える雰囲気があればいいと思う。

補足する。市民大学等の「等」には、文化協会とのつながりもあると思っている。

部会資料 3-1 の「キ 会場は妥当か」について

#### 【主な質疑】

老健施設のデイサービスの部屋は、地域での会議に貸してくれる。特養も含め、使えないか。

障害者施設によっては、どんどん使ってくださいというところがある。会場の大きさによっては人数が合わないところもあるが、大きいところは使えるのではないか。

会場の大きさ、交通の便、定期的に1年以上前から回数分を借りられるかなど、調整する内容はあがるが、チャレンジする意味があると思う。

小学校もどんどん使ってくださいというところがある。自分たちも会場が取れないと

きはそこも使っている。

連携の中で小学校も結構貸しているようだ。実態を確認するのもひとつの手である。高齢者の福祉施設は、地域に簡単に貸出をしてくれる。

生涯学習ルームを借りるのは結構難しいと思った。

生涯学習ルームもそうだが、コミュニティスクールも1年以上前から相当数お願いすることになるので、学校の判断を抜きには言えないということもあるようだ。1年前から予定するのだから。

可能な範囲で引き続き働きかけをしたいと思っている。届ける大学というのは、出前のように行くということか。

1回だけの出前というよりは、ある程度固定した部分で、身近なところに来れば学習できるというイメージだと思っている。

巡回とは別に、固定した会場にこちらから出張するということだと思っている。具体的にどのようなところをイメージしているのか。

交通の便があまり良くないということか。

そのとおりである。自動車運転免許証の返納をしているからなどである。返納して交通手段がないからとか、近くだからとか。

津久井や藤野、相模湖だと、旧庁舎とか空いているところありそうだ。

講師も年間通してその会場でとなる。

芸術の家なども広い。あのような場所も使わないともったいない。

これから高齢者がどんどん増えるので、高齢者用の校舎を造ることはできないのか。誰かが寄附してくれないものか。

統廃合により空いた学校をあじさい大学の拠点にするというのも、可能性はないわけではないと思う。学校の一部をあじさい大学に使うとかも。

土地がないのなら、米軍返還地の一部でもいいからいただけないか。

以前、姉妹都市の無錫市に行ったが、あじさい大学みたいなビルが建ち、そこに大勢いて、すごいと思った。

来年4月から清和学園がスタートする。校舎をどのように利用するのか、1教室だけでもあじさい大学で確保できれば、交通の便が悪いから、届ける大学にはチャンスだと思う。

夢物語かもしれないが、スクールバスで区内を巡回できるといい。

財政的なところがハードルとなる。あじさい大学は全市的な展開からスタートしているのに対し、高齢者学級をはじめとする生涯学習は地域単位である。また、教育財産が転用される可能性がある。日常生活の移動の問題も出てきている。部会からの意見も踏まえ、生涯学習部局との意見交換など、環境を整えていきたい。

経系だけではなく、横系をしっかりとつけてもらいたい。

会場と交通手段がしっかりしていれば、生徒が増えるわけだから、そこが一番である。

部会資料3-1の「ク 講師選定は妥当か」から「コ 募集方法は妥当か」までについて【主な質疑】

講師プロフィールの公表により集客にも影響があるだろう。公表は非常に良い。また、

基本的なところをどう楽しくやれるかというところで教え方の工夫をして欲しい。

教え方の工夫というのは、講師に工夫をお願いするということか。

授業の進め方についての学生アンケートでは、「良い」と「おおむね良い」とを合わせ約9割の方から良い評価を得ている。学科によっては難しい内容もあるので工夫を求められることがあり、一律ではないが、講師をお願いすることになる。

対象年齢について、高齢者施策で始まったものを引き下げるのは、本来の目的からずれてしまう。高齢者が増えていく中では、年齢を引き下げなくていい。それから、土日開催では50歳代が出られると思うが、平日開催の昼間だと、50歳まで下げてもどれだけ集まるか疑問がある。

広報さがみはらをよく読むが、あじさい大学の知名度が低い。あじさい大学でこのようなことをしているというものが載っていない。募集時期になったら広報で出すのではなく、常にこういうことをやっているというアピールがなさ過ぎるのではないか。

広報さがみはらは、多くの情報を入れなくてはということでは何から何まで入っている。

広報さがみはらは、例えばホームページに出ている、チラシをまちづくりセンターなどに置いているというものについては必要最小限度しか載せないという編集方針だと聞いている。掲載希望が多く、限られた紙面をどう使うかということのようだ。あじさい大学のPRとしては、特集記事などで工夫したいと思う。

学生祭ではないが、市民会館を借りてアピールをするなどはできないか。

作品展や発表会を行っており、本年度は2月に予定している。

対象年齢は、あじさい大学の目的が高齢者を対象としているから、60歳以上で良い。土日開催に関しては、孫の面倒を見る、それから60歳以上の方でも仕事している方がいるということで、会場があり、講師の都合がつけば50歳以上も選択の範囲に入れておいた方がいいのではないか。

本来の目的は仲間づくりのためというのがあじさい大学だと思う。60歳以上で良い。

土日は、学校関係や仕事が休みの人たちが来られるのでは。また、勤めている若夫婦が土日は休みとなり、孫の面倒を見ている高齢者が出られるのではないか。

試験的に土日の開講や短期講座みたいなのをやってみるのもひとつの方法かも。議論するよりは実践した方がいい気がする。

60歳以上の人にとって、一緒に若い方がいると出やすいのではという思いである。特に土日であれば50歳代の方も出やすい。

公開講座の対象を50歳以上の方としたのは、他の事業と一緒に実施したからであるが、50歳代の受講者もいたし、また、あじさい大学受講生アンケートの結果では、若い人が入れば活性化につながるのではないのという意見もあった。

間口を広げるということに関しては、いろいろ選択の幅が...

付き添いはダメなのか。

足が不自由なため行きたくても行けないから家族が付き添うという人がかなりいると思う。何かうまくできないのか。

子どもの場合には、研修会やサークルなどで保育を設けている。高齢者にも、別に付き添いの方の部屋を設けるとか、何らかの形を対処していかないとと思う。行きたいという方を外に出してあげるということも、活性化につながるのだから。

付き添いについては考えたい。

自治会館などには、あじさい大学のチラシなどはいっているのか。

公民館にはいっている。自治会に回覧をお願いした方が、広報よりも効果的。自治会に入っていない方は、公民館やまちづくりセンターで見てもらうようになる。

市社協の「みんないい人」もお祭りや地区の行事も入っているので、市社協にお願いできればいい。

掲示板はどこか。

掲示板は、市が補助金を出して、自治会が設置している。

公民館で高齢者学級をやっている。8回から9回くらいやっているので、PRに。

自治会や高齢者学級など、関連のあるところは検討したいと思う。自治会の回覧では、相当な部数を刷らなければいけない。

そのとおり、枚数はかなり多い。

年1回でもあじさい大学の名前が回覧で回り、知らない人に知られていくということとは必要だと思う。単独で厳しければ、違う方法もないか考えてみたい。

広報紙は難しい。

広報紙はみなさんお話のとおり厳しい。載る場所が悪いと募集状況に直接影響も。

ポスターも結構お金かかる。

広報紙は長々と見て、やっと見つかるくらいだ。

部会資料3-1の「サ 欠員を最小限にするためには」及び「ス 見学・体験講座は必要か」までについて

#### 【主な質疑】

欠員は最小限にしないとまらない。せっかく応募して落ちた人が、後で入れたのというのが悔しさにつながる。受かった人が必ず受講してもらうためには、第1希望のみにすれば、受かった人が辞めないのかなという気がしてならない。あと、本当に入れる数の定員をしっかり作って、最大限募集をかける方がいいと思う。

公開講座の体験編は、どのような形を言っているのか、想像がつかないのだが。

できれば年度後半で次年度募集前に、あじさい大学ではこのようなことをやっている、だから次の募集で応募してくださいとつながる時期でやれればと思っている。

費用も1回いくらということか。

材料を使う場合には、いただくこととなるが、費用面については詰めをしなければならぬ。できれば無料でやれればと思っている。

受講料はどうするのか。

受講料は市として全体の考え方があるので、それに沿うということで理解いただきたい。

部会において出された意見をまとめ、次回開催のあじさい大学運営委員会に報告することとした。なお、報告内容については、正副部会長に一任され、また、委員会では、川上委員がその内容を報告することとされた。

( 2 ) その他

今回は、令和2年1月27日(月)午前10時から開催することで調整することとした。

閉会

## あじさい大学見直し検討部会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	部会長	出席
2	安藤 正義	老人クラブ連合会会長	副部会長	出席
3	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
4	池田 直道	市文化協会 会長		出席
5	川上 宏	市体育協会 常務理事		出席
6	佐々木 務	学生代表（P C 1）		出席